

令和5年度 府立宮津天橋高等学校加悦谷学舎 学校経営計画（スクールマネジメントプラン）（実施段階）

学校経営方針（中期経営目標）	前年度の成果と課題	本年度学校経営の重点（短期経営目標）
【教育理念】 真理と正義を希求し、豊かな人間性を備え、幸せな人生と社会を創造する人間を育成する。 【教育目的】 我が国や地域社会の発展に貢献する「社会的使命感と青雲の志」を持つ人間の育成 【教育目標】 - 幅広く深い知識を身に付け、豊かな情操と道徳心を培う。 - 自主自律の精神を養うとともに、主体的に社会の形成に参画し、その発展に貢献する。 - 伝統と文化を尊重し、郷土を愛し、地域社会を守り受け継ぐとともに、国際社会の平和と発展に寄与する。 【育てる生徒像】 - 広い視野を持ち、理想を実現しようとする高い志や意欲を持って主体的に学びに向かい、自ら知識を深めて個性や能力を伸ばし、人生を切り拓いていくことができる生徒 - 対話や議論を通じて、自分の考えを根拠とともに伝えるとき、他者の考えを理解し、他者への思いやりを持って多様な人々と協働していくことができる生徒 - 感性を磨き続けながら、よりよい人生や社会の在り方を考え、試行錯誤しながら、問題に立ち向かい、新たな価値を創造していくことができる生徒	【成果】 ◇新型コロナウイルス感染症感染拡大の中でも、感染防止対策を徹底しながら、授業や多くの学校行事などの教育活動を進めることができた。 ◇高校魅力化コーディネーターの活動により与謝野町との連携や地域人材の活用がさらに進み、総合的な探究の時間やKayadani仕事図鑑を始めとするキャリア教育、各教科での外部講師による特色ある授業等教育活動の充実を図ることができた。 ◇学校評価アンケートで学習指導・進路指導の項目がともに生徒の90%以上が肯定的評価をしている。また、予鈴(8:35)遅刻者が、前年度に比べ約59%減少するなど、落ち着いた学習環境が維持され、学校評価アンケートでも生徒が高く評価をしている。 ◇早期からの就職ガイダンスや生徒個人ごとの進路検討会を学年部と進路指導部が連携して実施し、生徒の希望進路の実現に繋がった。特に4年制大学の合格率は大幅に向上した。 ◇部活動加入率は72.3%であった。硬式野球部の21世紀枠京都府推薦校選出を始め、体育系・文化系ともに全国大会、近畿大会出場等の実績を上げており、学舎制による合同部活動の成果が見られた。 【課題】 ◆新規の学校説明会や個別相談会の実施など広報活動の充実を進めたが、入学定員を満たすことができなかった。地元中学校教員への情報発信を進める。 ◆取組内容の改善を進めてきた総合的な探究の時間の完成年度を迎え、探究活動の一層の充実を図るとともに、外部への発信方法についても検討する。 ◆宮津学舎との一層緊密な連携を図り、学校行事、合同部活動、遠隔教育システムによる授業等により両学舎の生徒・教員の相互交流を推進する。 ◆教育相談や外部機関等との連携を進め、多様な課題を持った生徒への対応をきめ細かに行う。 ◆高校魅力化コーディネーターの交代を受け、これまでの実績の上に、地域との連携がさらに充実したものとなるよう取り組む。	学力向上 一人一人にきめ細かな指導を展開し、基礎学力及び発展的な学力を身に付けさせ、探究的な学習をととして、主体的に学ぶ姿勢を育成するとともに、希望進路の実現に必要な学力を養成する。 学校行事・部活動の充実 メリハリのある教育を展開し、平日の放課後時間を有効に活用させる。生徒会活動や部活動など自主活動の一層の充実を図る。 地域貢献・ボランティア活動 ボランティア活動を積極的に行うとともに、「出前授業」「スポーツ交流」など小・中学校、地域社会、PTAと連携した取組を充実させ、地域社会に貢献し信頼される学校を目指す。 広報の充実・入学希望者の増加 本学舎の取組をホームページ、ニュースレター、学校公開など、あらゆる機会を活用して発信し、入学希望者の増加につなげる。 魅力的な教育内容の実践 学舎制の特色を活かした遠隔教育システムによる授業や学校行事・部活動での連携とともに、アスリートスポーツコースの一層の活性化により、入学した生徒が広い視野を持ちながら大きく成長でき、学校と地域社会がともに発展する魅力的な教育活動を行う。 教職員の資質能力の向上 改定された「京都府教員等の資質能力の向上に関する指標」を踏まえ、ステージに応じた資質能力の向上を図る。また、ICTの活用や新学習指導要領による観点別評価の研修を深め、授業改善を推進する。

評価領域	項目（重点目標）	具 体 的 方 策	評 価			成 果 と 課 題
組織・運営	○学校の特色化と積極的な情報発信により入学希望者を増加させる。 ○学舎間の連携を活性化するとともに学校体制の充実を図る。	○本学舎の魅力を積極的に広報するとともに、中学校教員向け説明会の実施やアスリートスポーツコースの活性化、部活動勧誘による前期選抜B方式の志願者確保を進める。	B	B	A	○中学校教員対象の学舎説明会の新規実施や個別相談会の拡充を図った。アスリートスポーツコースでは実習を積極的に実施し、前期B方式受検者数21名で志願者を一定数確保できた。 ○部活動では学舎間バスを多数の部員が利用し成果も収めた。学年行事や探究活動、天橋芸術祭等で新規の学舎間交流が実施できた。
		○学校行事や部活動、遠隔授業など合同の活動を活発に行い、両学舎の生徒・教員の交流を推進し、相互理解と多様性を認め合える豊かなで寛容な心を養う。	A	A		
学習指導 ・ 進路指導	○一人一人に寄り添うきめ細かな指導により、学力の向上を図り、希望進路の実現に必要な確かな学力を養成する。	○BYODの活用や観点別評価の実施、探究学習の推進により、将来を予測することが難しいこれからの時代で生き抜く力を身に付けさせる。	A	A	A	○1・2年生のBYOD活用や観点別評価はスムーズに実施でき、探究学習の形が一定完成した。今後、生徒がより主体的に行動できる力を身に付けさせたい。 ○学年部と進路指導部が連携した丁寧な指導により就職・進学ともに高い内定・合格率を達成した。新規に2年生でインターンシップを実施し、就職指導の流れが完成した。進学では全国的にも年内受験が増える傾向にあり、対応した指導を今後も丁寧に行っていく必要がある。
		○探究学習や各種ガイダンス等で進路に対する理解を深めさせる一方、面談をはじめとする一人一人に寄り添った指導を行い、希望進路実現に向けて組織的に支援を行う。	A	A		
生徒指導 ・ 特別活動	○規範意識の一層の向上を図るとともに、諸活動の充実により主体的・協働的に活動する生徒を育成する。	○遅刻の防止、制服の着こなし、頭髪や身だしなみをはじめマナーを守る重要性和集団の一員であることを理解させ、問題行動の未然防止に務める。	C	C	B	○予鈴遅刻者は昨年、一昨年と比較し増加した。身だしなみに関しては概ね良好である。日常的な指導により問題行動の未然防止に務めた。 ○学校祭（文化祭・体育祭）はコロナ以前の形で実施できたが、支援学校との交流会はオンラインによる交流とした。各クラスのリーダー、生徒会役員、文化部員、運動部員が中心となり協力的な姿勢で取り組むことができた。
		○学校祭、支援学校との交流会等の行事を通じて、リーダーシップのとれる生徒や、取組に協力的な姿勢のとれる生徒の育成を目指す。	B	B		
健康安全 ・ 教育相談	○生命と人権を尊重する態度を育て、健やかな心身の育成を図る。 ○校内美化、感染防止を進め、安心・安全な教育活動を行う。	○教育相談会議の定例化等相談体制の充実を図り、要支援生徒の早期把握と適切な対応を行う。また、スクールカウンセラーや関係専門機関との連携を図る。	A	A	A	○教育相談会議を定例化し、生徒の情報収集や共有を行い、必要に応じて関係機関と連携し対応した。生徒の自己自立に向けて支援を継続していく。 ○校内の安全点検を定期的実施し、必要な箇所の改善を図り安全な環境づくりを進めた。また、感染症対策では、基本的な生活リズムの確保や換気、手指衛生、呼吸器衛生等の保健指導を継続した。
		○校内美化、学習環境の安全・衛生的管理を行い、安全に教育活動を進められるようにする。また、感染症の流行期においては予防と発生時の対応を迅速に進める。	B	B		
家庭・地域 ・社会連携	○家庭・地域社会との連携をより強固なものとし、教育活動の充実と学校の特色化を推進する。	○与謝野町高校魅力化コーディネーターとの強力な連携により、学校や生徒が地域社会と積極的に繋がり、地域での探究活動や地域貢献の取組を推進する。	A	A	A	○高校魅力化コーディネーターとの連携により、地域でのフィールドワークや外部人材を招いた学習を推進し、地域探究活動やキャリア教育を深化させることができた。 ○三者面談、学校祭や学校公開での参観に加え、連絡アプリの活用により家庭との連携を推進することができた。
		○学校行事等でのPTA活動の充実を図り、保護者面談や各種説明会等での情報提供を通じて、家庭・地域社会との連携を充実させる。	B	B		

学校関係者 評価委員会 による評価	・生徒が持っている良さや力を伸ばしてもらっており、学校を信頼している。 ・アスリートスポーツコースの小学生とのスポーツ交流等の取組は、生徒の成長が見られ希望進路の実現にも繋がっている。 ・インターンシップは、地域を支える人材の育成のため、地元企業としても協力していきたいので、今後も継続実施をお願いしたい。 ・オール6限授業で放課後時間を充実させることが特徴であるが、部活動加入率が7割であることは残念である。 ・学校評価アンケートは、昨年度の協議会での意見を反映させ、両学舎で統一したことで比較しやすくなり改善されている。今後は、経年比較でその推移に注目していきたい。 ・スクール・ポリシーは、両学舎の特徴や目指すものをしっかり反映しており、よくできている。今後、これを具現化していくためにどうわかりやすく伝え浸透させていくか工夫が必要である。
次年度への 改善の方向 性	・学舎制の立ち上げから一定期間が経過し、見直しや改善も必要である。部活動については、一方の学舎のみに設置の部活動についても参加を認める方向で検討する。 ・生徒の希望進路を実現するため、学力の向上と個に応じた丁寧な指導により就職・進学の実績を積み重ねるとともに、積極的な情報発信により生徒募集を積極的に進める。 ・スクール・ミッション、スクール・ポリシーを学校経営計画にも反映されるとともに、教職員・生徒・保護者・中学生に向けて学校行事や説明会等の機会を捉えてわかりやすく伝え浸透を図り、その実現に向けた教育活動を推進する。